

# 経済 信州発

## 県内新製品

☆自社畑のシャルドネから作ったブランデー発売

サンクゼール(上水内郡飯綱町)は、自社の畑で栽培したブドウのシャルドネを100%使った「サンクゼールブランデー2021 Blanche シャルドネ」=写真=を数量限定で発売した。2017年から飯綱町産のりんごでブランデーを造っており、ブドウを原料にするのは初。販売は同町のサンクゼール・ワイナリー本店のみ。

たるで熟成していないブランデー。シャルドネの上品な香りが楽しめ、まろやかな味わいに仕上がったという。アルコール分は40%。シリアルナンバーが入った245個入りは税込み3740円。35個入りは同913円。

☆無線通信対応の電気設備向け現場測定器

HIOKI(上田市)は26日、電気設備の電圧や電流、周波数などを現場で測定する手持ち式測定器「デジタルマルチメータ」の新製品=写真=を発売した。無線通信で測定値をタブレット端末

などに送信でき、保守管理業務の効



冷凍ギョーザ製造の信栄食品(松本市)は、自動販売機による冷凍ギョーザの販売を強化する。新型コロナウイルスの流行が長期化する中、客と店員の接触がなく、24時間稼働の自販機は利用が増えると予測。これまでの自社敷地拠点に続く3カ所目、計5台

内だけではなく、温泉施設や飲食店への設置を進めて販路を拡大する。

26日は松本市浅間温泉の日帰り温泉施設「ホットプラザ 浅間」の隣に自販機1台を設置した。市の直営店や出荷拠点に続く3カ所目、計5台

北佐久郡軽井沢町などで移住者向けに不動産仲介を行う「みよたの不動産(北佐久郡御代田町)は今月、低価格のユニットハウスと土地をセットにした「ジャスト・ユニット」の販売を始めた。ユニットハウスの値段は、簡易的な工事であれば税込み200万円台。都市と田舎に拠点を持ち、定期的に行き来する二拠点生活を低価格で後押しする。

同社によると、新型コロナウイルスの影響などを受け、都市部から地方へ移住を考える人が増加。特に軽井沢町と周辺は北陸新幹線(長野経由)で首都圏

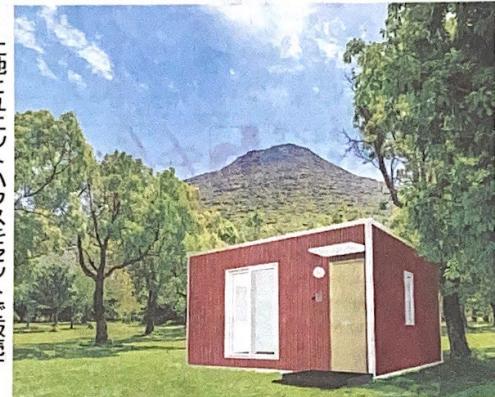
に設けた自販機の売り上げは、使ったギョーザ5種を販売する。新たに運用する冷凍車を使い、社員が商品を毎朝補充する。自販機の設置は5月に始め

## 信栄食品が設置拡大

### 「店員と接触なし」利用予測



ホットプラザ浅間に設置された自販機(左)と運用を始めた冷凍車(右)



土地とユニットハウスをセットで販売する「ジャスト・ユニット」のイメージ

月は約300万円に倍増する見通し。今後、飲食店の外などに設置し、来春までに計10台に増やしたいとしている。

新たに設置する自販機では、同社のギョーザに加え、設置した店舗の商品も貰えるようになる予定。神倉藤男社長は「消費者の購買行動の変化を捉え、地域活性化にもつなげたい」としている。

## 都市と田舎一拠点生活を低価格で

北佐久郡軽井沢町などで移住者向けに不動産仲介を行う「みよたの不動産(北佐久郡御代田町)は今月、低価格のユニットハウスと土地をセットにした「ジャスト・ユニット」の販売を始めた。ユニットハウスの値段は、簡易的な工事であれば税込み200万円台。都市と田舎に拠点を持ち、定期的に行き来する二拠点生活を低価格で後押しする。

同社によると、新型コロナウイルスの影響などを受け、都市部から地方へ移住を考える人が増加。特に軽井沢町と周辺は北陸新幹線(長野経由)で首都圏

に設けた自販機の売り上げは、使ったギョーザ5種を販売する。新たに運用する冷凍車を使い、社員が商品を毎朝補充する。自販機の設置は5月に始め

月は約300万円に倍増する見通し。今後、飲食店の外などに設置し、来春までに計10台に増やしたいとしている。

## ギョーザ自販機強化